

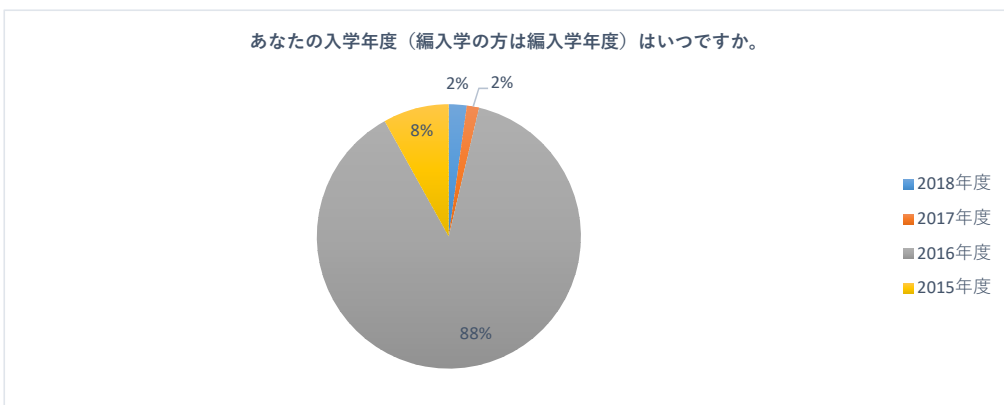
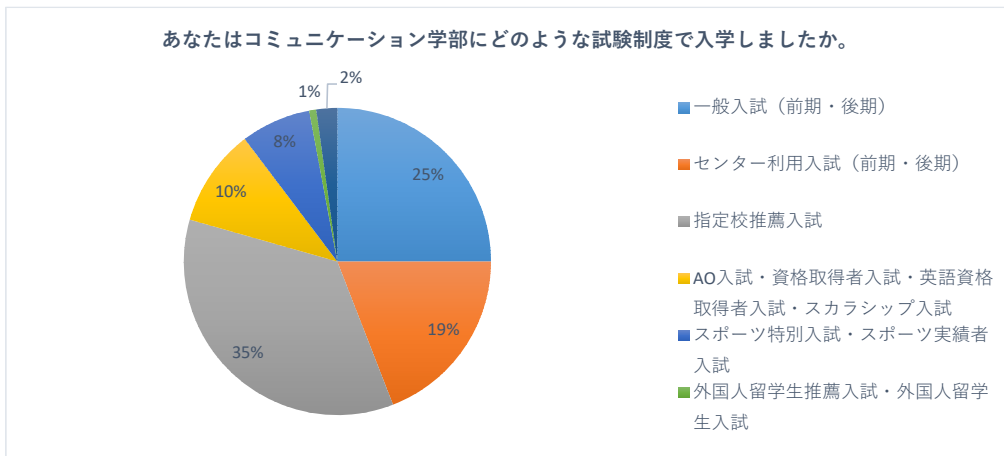
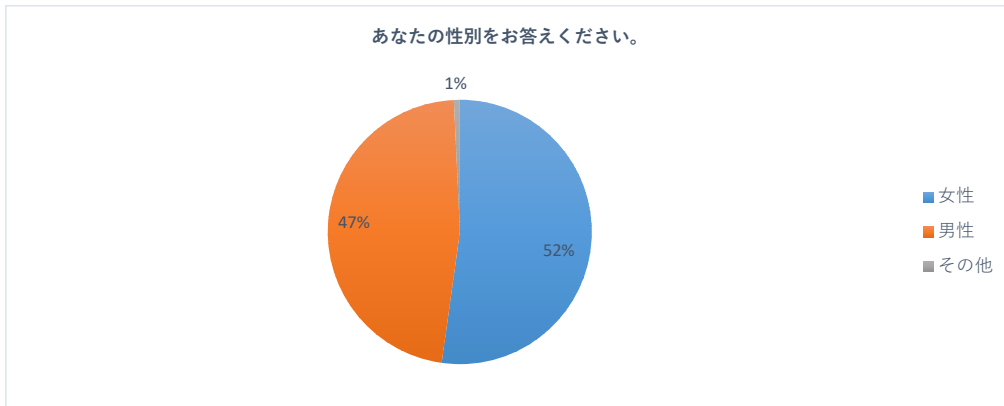
2019年度コミュニケーション学部卒業時アンケート

調査対象：2019年度3月卒業生 221名

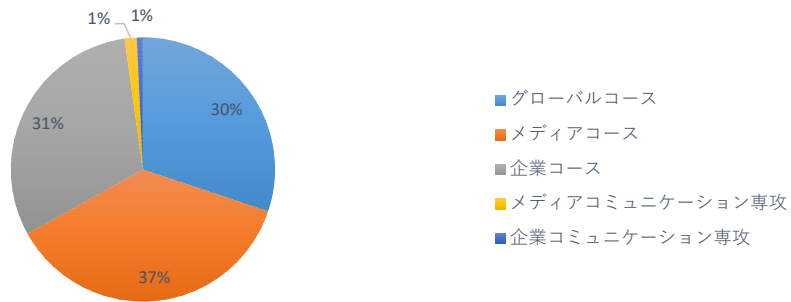
調査実施期間：2020年3月3日～3月31日

回答数：136件

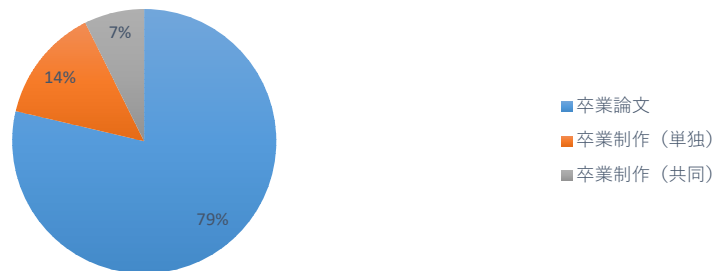
回答率：61.5%



あなたは学部でどのコースまたは専攻に属していましたか。

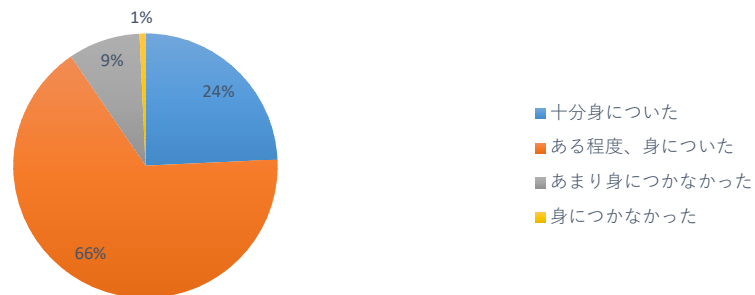


あなたは「卒業研究／卒業制作・卒業論文」をどの区分で提出しましたか。

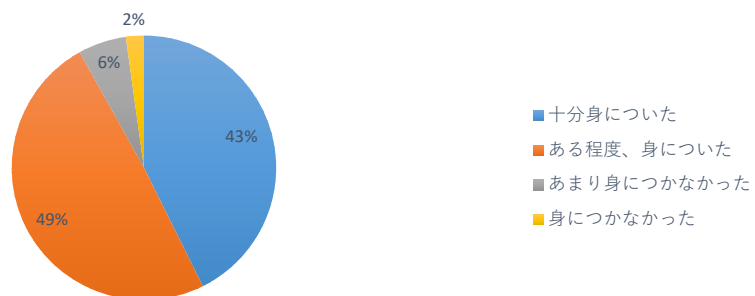


大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。

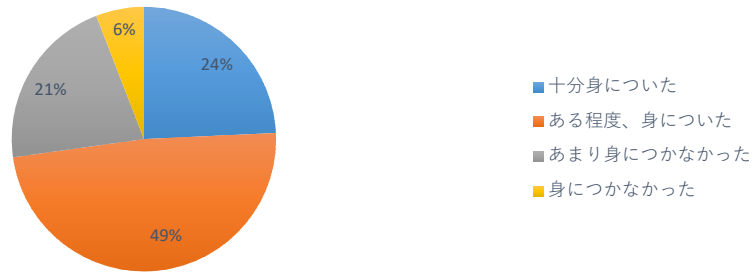
●「人間・社会・言語・自然」についての教養



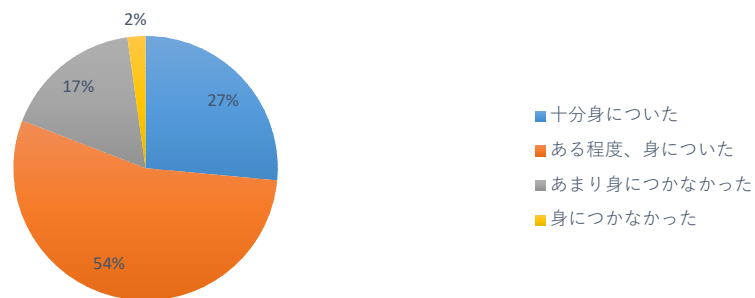
●他者との対話力



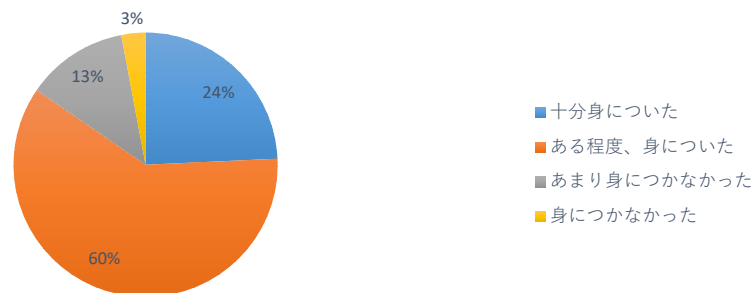
●他文化との対話力



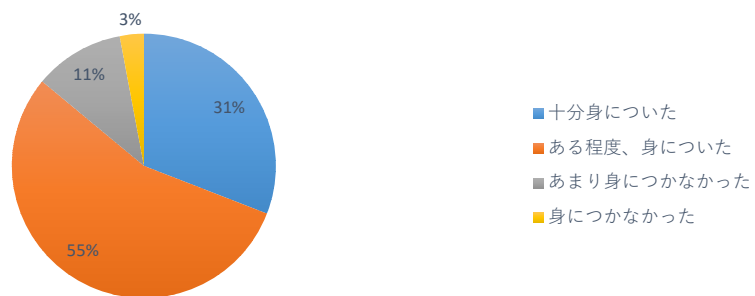
●メディアに関する知識

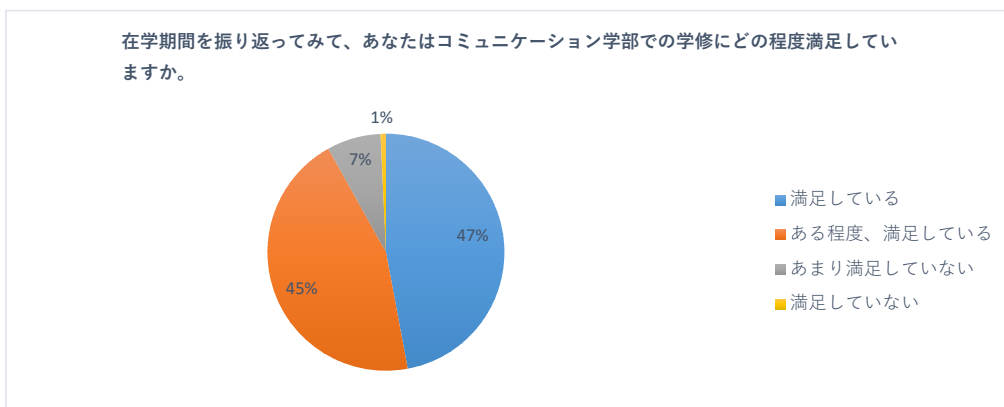
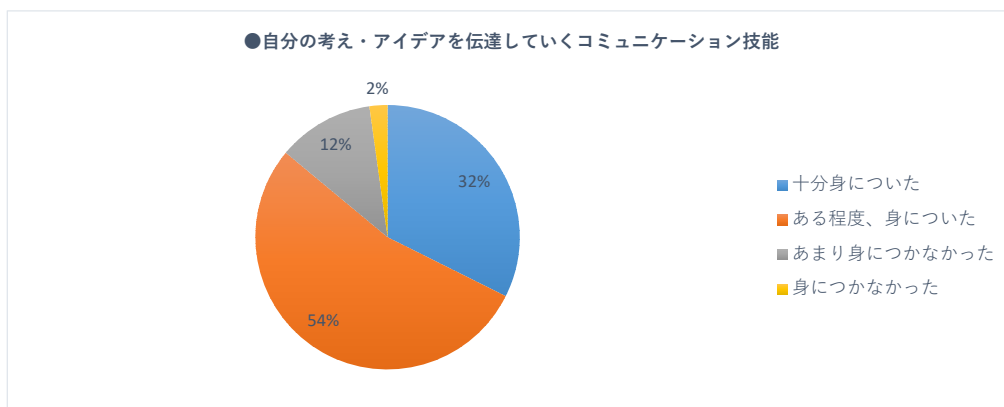
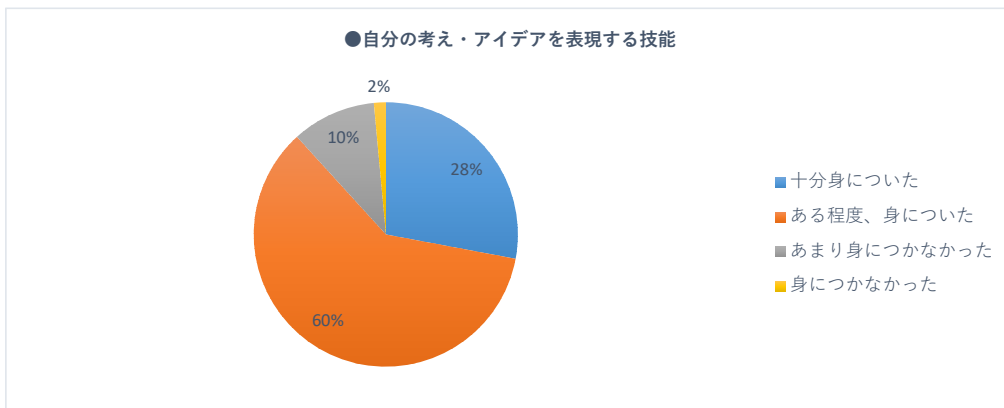


●情報を分析・評価する能力

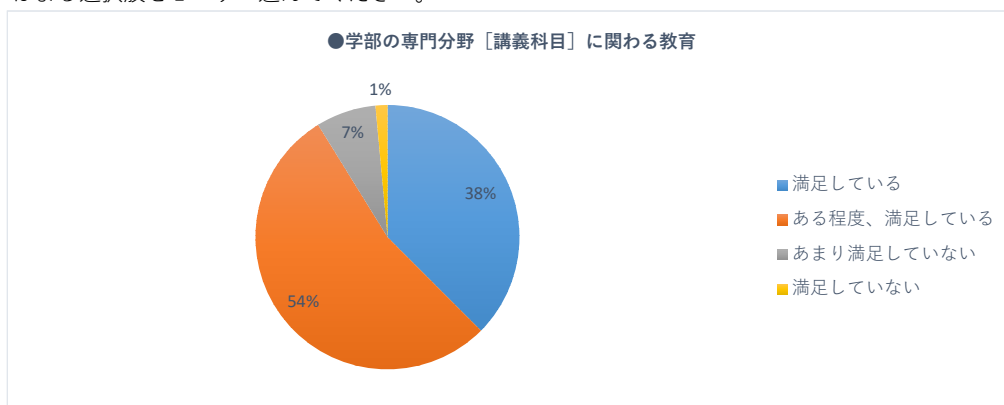


●コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力

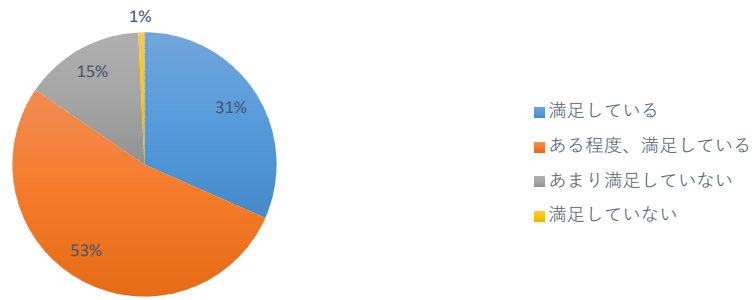




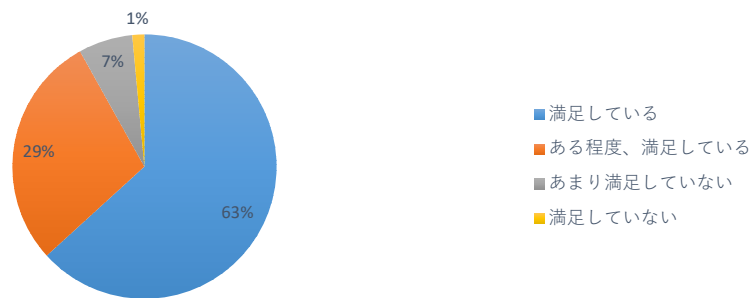
入学後の総合的な満足度として、以下のそれぞれの項目についてもっともよくあてはまる選択肢を1つずつ選んでください。



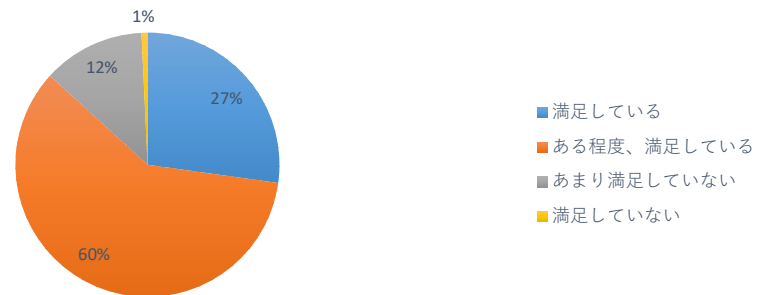
●総合教育科目に関わる教育



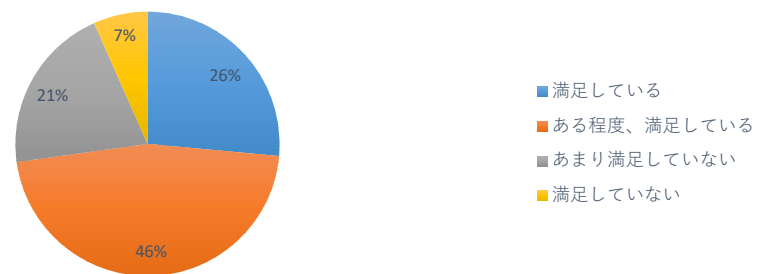
●「演習」



●カリキュラム全般



●就職活動支援



【分析編】

2020年3月3日～3月31日に、2019年度コミュニケーション学部卒業生に卒業時アンケートを実施した。136件の回答があり、卒業生全体に占める比率は61.5パーセント（136/221）であった。

本調査の主眼は、卒業時の学生が自身の4年間の学修成果をいかに感じているのか（成長実感）を可視化することであり、調査項目は当学部のディプロマ・ポリシー（以下 DP）に対応するかたちで作成されている。上記「大学での学修を終えた現在のあなた自身の自己評価」が該当の項目である。以下、DPごとに結果を確認する。

「人間・社会・言語・自然」についての教養」が、DP1「コミュニケーションの前提となる人間・社会・言語・自然についての教養の涵養」に対応する評定項目である。教育課程上は、総合教育科目を中心に学修する内容である。「十分身についた」と回答した者が24%、「ある程度、身についた」と回答した者が66%と、ポジティブな自己評価を示した者が90%と回答者のほとんどを占めた。

「他者との対話力」および「他文化との対話力」は、DP2「コミュニケーションの出発点としての身体性を踏まえた他者や他文化との対話力」に対応する評定項目である。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、グローバルコース科目およびワークショップ科目を中心に学修する内容である。「他者との対話力」については、「十分身についた」が43%、「ある程度、身についた」が49%と、肯定的自己評価が92%と非常に高い割合であった。一方、「他文化との対話力」は「十分身についた」「ある程度、身についた」をあわせて73%と回答者の約4分の3に留まった。「他者との対話力」は幅広い授業を通じて学修する内容であるのに対し、「他文化との対話力」は特に英語系ワークショップなどの授業での学修が中心となり、相対的に達成度が低くなったと考えられる。

「メディアに関する知識」「情報を分析・評価する能力」が、DP3「コミュニケーションを支えるメディアに関する知識と情報を分析・評価する能力」に対応する項目である。教育課程上は基幹科目と展開科目の共通科目、メディアコース科目および表現系ワークショップ科目を中心に学修する内容である。それぞれ肯定的回答（「十分身についた」「ある程度、身についた」）が81%、84%であったことから、高い達成度が示されたといえよう。

「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見する能力」は、DP4「コミュニケーションに関わる事柄での問題を発見・分析・解決する能力」に該当する項目である。教育課程上は基幹科目と展開科目の共通科目、3つのコース科目、調査系ワークショップ科目を中心に学修する内容である。この項目では肯定的回答が86%であったことから、高い達成度が示されたと考えられる。

「自分の考え・アイデアを表現する技能」「自分の考え・アイデアを伝達していくコミュニケーション技能」は、DP5「自分の考え・アイデアを創造的に表現し、伝達していくコミュニケーション技能」に該当する。教育課程上は、基幹科目と展開科目の共通科目、企業コース科目、英語系・表現系ワークショップ科目、そして卒業研究を中心に学修する内容である。前者の項目の肯定的回答は88%、後者

の項目の肯定的回答は86%であったことから、DP5について高い達成度が示されたといえるだろう。

また、入学後の総合的な満足度について、「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」「総合教育科目に関わる教育」「演習」「カリキュラム全般」「就職活動支援」の5項目を尋ねた。肯定的回答は「学部の専門分野〔講義科目〕に関わる教育」で92%、「総合教育科目に関わる教育」で84%、「演習」で92%、「カリキュラム全般」で87%、「就職活動支援」で72%であった。専門教育に対する満足度についてはどちらも92%の肯定的回答がえられており、高い満足度が示されたといえるだろう。

一方で「就職活動支援」については肯定的回答が72%にとどまっていた。つまり肯定的回答が過半数を占めてはいたが、他の項目に比べると相対的に低い満足度であった。今後、より一層の工夫が必要になる部分であると考えられる。

総括すると、2019年度コミュニケーション学部卒業生は、コミュニケーション学部のディプロマ・ポリシーを4年間で多くが達成したと実感していたといえる。また、教育課程に対して総合的に満足していた割合も高かったといえるだろう。今後はこの結果を維持・向上させるよう、努力を継続していく必要がある。